

製品名: WNK2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19911**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	252kDa

抗原情報

遺伝子名	WNK2
別名	KIAA1760 PRKWNK2 SDCCAG43 P/OKcl.13
遺伝子 ID	65268.0
SwissProt ID	Q9Y3S1
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 1120~1200

背景

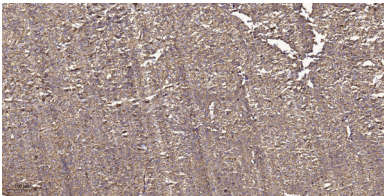
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞質セリン-スレオニンキナーゼであり、タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。このタンパク質は、電解質恒常性、細胞シグナル伝達の生存、および増殖の調節において重要な役割を果たします。選

括的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013年9月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、注意: 活性部位残基であると予想される保存された Lys の代わりに、Cys-224 が存在します。Lys-207 が必要な触媒機能を果たしていると考えられます。、補因子: マグネシウム。、酵素制御: 活性化には Ser-356 の自己リン酸化が必要です。Ser-352 のリン酸化も活性の上昇を促進します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。WNK サブファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、組織特異性: 主に心臓、脳、結腸で発現します。、

研究分野

シグナル伝達、タンパク質リン酸化、Ser/Thr キナーゼ、エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、がん感受性、腫瘍抑制因子

画像データ



パラフィン包埋ヒト小腸癌組織の免疫組織化学分析。1、Wnk2 ウサギポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°Cで一晩)。2、クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗原賦活化 (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、45分)